

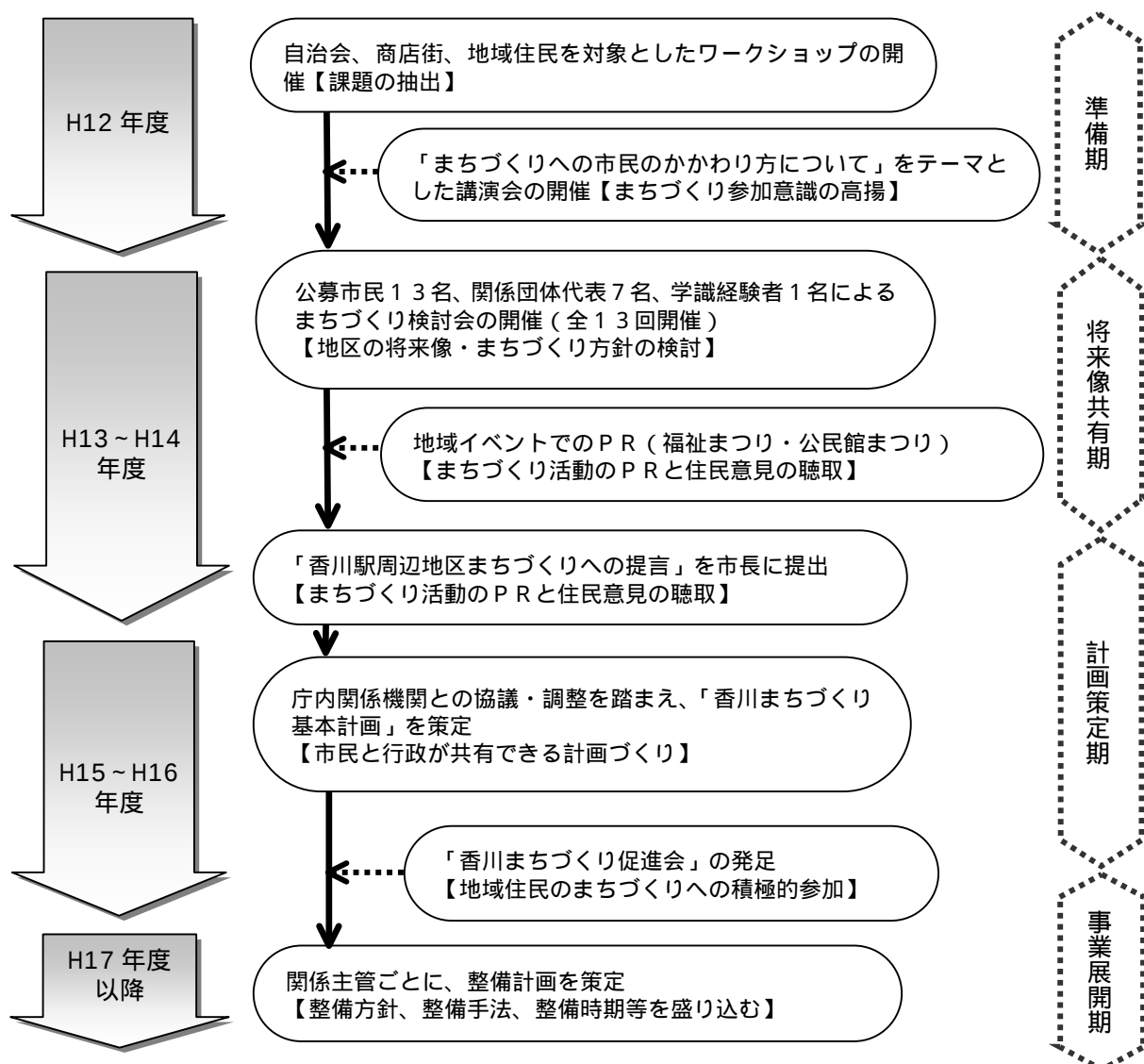
1 まちづくりの経緯と基本計画の役割

(1) まちづくりの背景と経緯

香川地区は、香川・下寺尾地区の大規模な土地区画整理事業や相模線の複線化を視野に入れた香川駅の行違い駅化工などととも、都市計画道路東海岸寒川線、藤沢大磯線や県立茅ヶ崎里山公園の整備、さらには新幹線新駅を核とした環境と共生する都市づくりによる「ツインシティ構想」などの推進により、まちの姿が大きく変わろうとしている。

このような状況にある本地区は、市北部の拠点としても重要な役割を担う地区であると同時に、多くの人が生活する住宅地区であり、住民や事業者、行政がこのまちの将来像を共有し、それに向かって協働によるきめ細かなまちづくりを展開していくことが求められてきた。

そのような中、平成12年度の自治会、商店街、地域住民を対象としたワークショップからスタートし、先進市への視察やまちづくり検討会を開催しながら、地域住民主体による「香川駅周辺地区まちづくり検討会」において「香川駅周辺地区まちづくりへの提言」という形で提案がまとめられた。市ではこれを受け、平成15～16年度の2ヵ年をかけて庁内関係各課と協議・調整を行い、当該地区のまちづくりのマスタープランとなる「香川まちづくり基本計画」を策定してきた。



(2) 基本計画の役割と位置づけ

まちづくり基本計画は、「ちがさき・さわやかプラン」や「ちがさき都市マスタープラン」における全市的な視点による香川地区の位置づけを受け、地区における現状と課題を踏まえながら、地区の将来像や将来土地利用、まちの骨格など、まちづくりのマスタープランとなるものである。

なお、この基本計画は、平成 14 年度に公募市民や関係団体代表で構成される「香川駅周辺地区まちづくり検討会」から市長に提出された「まちづくりへの提言」をもとにした、本市ではじめての試みである 市民提案型 のまちづくり計画として位置づけられ、概ね 20 年後を目標とし、さまざまな社会情勢や経済状況の変化に柔軟に対応しながらまちづくりを目指す。

